

令和6年度 学校評価報告書【国立市国立第八小学校】

学校教育目標	○よく考える子 ○共に生きる子 ○最後まであきらめずにやり抜く子	重点目標	共に生きる子
--------	--	------	--------

学校教育目標	経営の重点	中・長期的な展望	本年度の重点	評価結果及び分析、改善の方策など	達成度	学校関係者評価
よく考える子	子どもたち同士が学び合える環境づくり	学ぶ目的や伝える相手を明確にし、子どもたちの納得を重視した学習活動の推進	1人1台端末やデジタル教科書を活用した授業づくり	児童アンケートにおける肯定的な評価は89.3%、保護者アンケートにおける肯定的な評価は83.7%でした。前年度と比較すると、児童の肯定的な評価が15.4%増に対して、保護者の肯定的な評価は6.3%減という結果になりました。日常的に1人1台端末やデジタル教科書を活用している児童にとっては身近なツールではあるものの、保護者の方にとっては活用している場面を見たり、学びを広げたりしている場面を見る機会が少なかったことも肯定的評価が減少した要因と考えられます。令和7年度には、長期休業中の課題をはじめ、家庭学習等においても1人1台端末の積極的な活用を推進していきます。	B	1人1台端末の活用については、SNSなど一定の危険性が隣り合わせであることを子どもたちが理解できるような疑似的な体験を取り入れたり、仕組みをつくったりするような方向性が見えると子どもたちの意識も変わるのではないのでしょうか。
			習熟度別指導やグループによる学習など学びの場を工夫した授業づくり	児童アンケートにおける肯定的な評価は88.3%、保護者アンケートにおける肯定的な評価は81.4%でした。前年度と比較すると、「分からない」と回答した割合が児童・保護者ともに増加し、特に保護者アンケートについては「分からない」の回答が9%増となりました。ペアやグループによる学習形態を取り入れたり、3年生以上の算数では習熟度別指導を行っていますが、目にしている機会やご家庭で耳にされる機会が少ないことが要因となっていることが考えられます。今後は、より広い場面で学びの形態を工夫しつつ、情報発信に努めていきます。	B	(学校より) 教師が指導する場面はありつつも、SNS等のルールづくりについては子どもたちが主体的に取り組めるようにしていきます。また、SNS等に潜む危険性や正しい使い方については、セーフティ教室で啓発をすすめていきます。
			学習課題やめあてを提示し、学習への見通しをもたせた授業づくり	児童アンケートにおける肯定的な評価は88.2%、保護者アンケートにおける肯定的な評価は81.4%でした。前年度のアンケートにおいても、児童・保護者からの肯定的な評価が80%を超えており、ユニバーサルデザインに基づいた環境づくりと授業づくりが定着しつつある成果と捉えています。児童自身が学習課題をつくっていくこと、自らの学びを自己調整していくことを目指しながら、今後も、自らの学びを振り返ることを通して、獲得した知識や技能を他の教科や領域等で活かすことができるような気付きにつなげていきます。	B	
共に生きる子	体験を通して、関わり合い、つながり合う環境づくり	異年齢集団による自治的な活動の推進を基盤とした子どもたち同士の関係づくり	全学年によるたてわり班活動を通した実践力づくり	本年度に導入した全学年による「たてわり班活動」については、児童アンケートによる肯定的な評価が85.3%、保護者アンケートにおける肯定的な評価は79.1%でした。児童からは、全校遠足で協力できたことや6年生のリーダーシップに対する感謝など、好意的な声が多く挙がりました。教員からも前年度まで行っていた異学年交流より、児童が主体的に活動する姿が見られたという声がありました。令和7年度には、1年間の活動の見通しをもったり、振り返りを次の活動に活かしたりできるように、たてわり班でもクラスルームの活用をすすめていきます。	B	学校が取り組んでいることが保護者をはじめ、外から見えづらかったり、分からなかったりすることがあると思います。子どもが高学年になってくると、家で学校のことを話さなくなってくるので、より学校側からの情報発信が大切になってくるのではないのでしょうか。
			どの子も安心して学ぶことができる居場所づくり	児童アンケートにおける肯定的な評価は82%、保護者アンケートにおける肯定的な評価は95.3%でした。本年度は、どの教室でも同じ環境になるように、全学年で掲示物や黒板まわりの環境を整えたり、国立八小の手引きに基づいた指導を徹底したりと教員側のスタンダードを設定しました。学校生活満足度調査(Q-U)をもとに、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングを取り入れたり、受容的な雰囲気 of 学級づくりを意識したりすることで、一人一人がその子らしくいられる学校づくりを推進している最中ですので、次年度も本年度同様の取組を継続していきます。	B	(学校より) 本年度は学年だよりに各学年での取組や子どもたちの様子などを掲載し、教育活動の見える化を図りましたが、伝わりきらない部分もあったかと思います。また、学校ホームページの更新も滞ってしまい、情報発信の量と質に課題が残りました。学年だより等の内容の充実とホームページの更新を心掛け、子どもたちの様子や教育活動の状況等をこまめに伝えられるように改善していきます。
			思いやりといたわりの心をもった関係づくり	児童アンケートにおける肯定的な評価は93.1%、保護者アンケートにおける肯定的な評価は90%でした。前年度と同様に肯定的な評価が非常に高くなっています。特別の教科道徳をはじめ、学級活動や学校行事において、共感的な関わりを重視してきた成果の一つと捉えています。今後も、関わり合い、認め合い、励まし合いながら高め合っていく集団づくりを目指し、特に学校行事においては、ねらいをはっきりさせ、取組の過程をはじめ、ゴールをどこに設定するのかについて共通理解を図りながら、教員がより丁寧に関わつつ、児童が主体となるようにしていきます。	A	
最後まであきらめずやり抜く子	目標の実現に向けて、向上心を高められる環境づくり	工夫と改善を繰り返すことで主体的にチャレンジする場面の創出し	年間を通した目標設定や振り返りの場づくり	児童アンケートにおける肯定的な評価は88.2%、保護者アンケートにおける肯定的な評価は81.4%でした。前年度の児童アンケートでは肯定的な評価が86.9%でしたので、ほぼ横ばいの状況です。どの学年も各学期始めに目標を設定し、学期末に振り返りをしたり、運動会や展覧会などの学校行事に際しては、めあてをもたせて活動になるように留意したりしています。一人一人が設定した目標やめあてが適切なものであったのか、達成するためにどのような過程を経たのかを見取り、向上心をもち続けることができるように支援していきます。	B	運動会が終わってから2学期にかけて、体験的な活動が多く、ボランティア等で参加をすると子どもたちが楽しみながら活動している様子が伝わってきました。次年度も積極的に取り入れていただきたいと思います。
			校外学習やゲストティーチャーの活用を通した体験的な学びの場づくり	児童アンケートにおける肯定的な評価は91.1%、保護者アンケートにおける肯定的な評価は90%でした。前年度と比較すると、児童アンケートの肯定的な評価は3%以上増、保護者の肯定的な評価は6%以上増という結果になりました。本年度は、生活科や総合的な学習の時間、家庭科などの時間に、保護者の方へ引率のボランティアをお願いしたり、教育活動へのご協力をお願いしたりする機会が多かったことから、保護者の方からの肯定的な評価が伸びたものと考えております。引き続き体験的な学びを重視しつつ、学びを点ではなく線にできるように計画性をもってすすめていきます。	A	(学校より) 体験から学ぶこと、本物から学ぶことを大切にしつつ、体験で得た学びがその場限りにならないように、しっかりと線で結び、他の教科等でも活かすことができるよう、計画的に体験を重視した教育活動を展開していきます。
			校内研究を通した児童の自己決定と自己調整能力の場づくり	本年度は「どんなことにもあきらめずに立ち向かう八小っ子の育成～体育科におけるゲームデザインの工夫を通して～」という研究主題のもと、国立市教育委員会研究奨励校としての研究発表を行いました。特に「ゲーム及びボール運動」領域に焦点を当て、学びの場を自己決定し、調整していく力を育むために「アダプテーション」(ルール等の調整)を取り入れました。児童アンケートによる肯定的な評価は93.1%と非常に高いものになっていることから、引き続き実践を積み重ねることで、変容を見たいと考えています。また、他教科や領域においても、自己決定の場面と調整をする機会を確保していきます。	A	

達成状況の指標 A: 90%～100% B: 70%～89% C: 69%以下
--